

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<長期目標> リンポポ州ベンベ郡における HIV 陽性者及びエイズに影響を受けている人々が心身ともに健康を維持することができ、HIV/エイズに対する差別・偏見が軽減され、HIV 感染拡大が抑えられる。 <プロジェクト目標> リンポポ州ベンベ郡マカド地区 9 村において、HIV 陽性者が健康を維持していくためのサポート体制が向上するとともに、HIV 陽性者を含む地域住民が効果的な HIV 感染拡大予防活動に取り組むことができるようになる。
(2) 事業内容	(●＝実施した事項 ▼＝実施が遅れている事項) (イ) 地域で患者をケアする在宅介護ボランティア (Home Based Care Volunteer、以下 HBCV) の育成 ①HBCV の能力向上のための研修(HIV/エイズ治療に関する研修、救急法研修、カウンセリング法研修)、②他村、他 NGO の経験から学ぶための経験交流の実施 ● 2 月 9～13 日、3 月 16～20 日の 2 週間にわたって、チルンザナニ HBC の訪問介護ボランティア 22 名、その他のコミュニティメンバー 7 名を対象にエイズ治療研修が行われた。 ● 3 月 23～26 日の 4 日間、救急法研修レベル 2 が、チルンザナニ HBC 訪問介護ボランティア 22 名、LMCC の DIC ボランティア 6 名 (3 センターより各 2 名参加) を対象に実施された。 (ロ) ケアの必要な子どもの世話をするボランティア (Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下 DICV/ECDV) の育成 ①DIC ボランティアの能力向上のための研修(イと同様)、②子ども同士の経験交流、③子どものケアセンター (DIC) に対する、楽器や本などの教材提供 ● 3 月 9～13 日にかけて、昨年 11 月に実施されたコミュニケーション研修の第 2 回が実施され、DIC ボランティア 22 名が参加した。 ● 3 月 23～26 日に実施した救急法研修レベル 2 に DIC ボランティア 6 名 (3 センターより各 2 名参加) が参加した。その後、各センターで情報を共有し、レビューを 4 月 17 日の統計会合で実施した。 ● DIC ボランティアが企画し、4 月 14 日及び 5 月 8 日にンジャカンジャカ小学校にて、4 月 23 日にボドウェ村中学校にて、子どもの虐待やいじめなどのトピックについて授業を実施した。 ● 4 月 27 日にンジャカンジャカ村にて、5 月 15 日にボドウェ村にて保護者やコミュニティメンバーを対象としたオープンデーを実施した。それぞれ、約 100 名、24 名の保護者などが参加した。 ● 統計会合を 2014 年 12 月～2015 年 5 月毎月実施し、研修の振り返りや学校での啓発活動内容の共有などの機会を設けた。 ● 5 月 20～21 日に、子どものケアプログラム改善研修及びメンター制度の候補団体である Keep the Dream 及び Lamulani CBO が DIC を訪問した。 ▼ 2、4 月に予定されていた子どものケアプログラム改善研修は実施協力団

	体が上半期ないに決まらず、6 月以降の実施に変更された。 <u>(ハ) HBCV および DICV による予防啓発活動の強化</u> ● <u>(イ)、(ロ)のなかで実施。</u> <u>(二)HIV 陽性者自身によるケアの質の向上と予防啓発活動の促進</u> ①HIV 陽性者が自身をケアできるようになるための研修、②経験交流、④予防啓発活動の促進 ● 活動地フィアボム村公立診療所にある HIV 陽性者サポートグループにより、とくに男性を対象とした HIV エイズ予防啓発化活動を実施した。約 180 名(男性 138 名、女性 42 名)名が参加。うち 71(男性 64 名、女性 7 名)が HIV 検査を受けた。 ● 5 月 11～15 日にエイズ治療法研修を実施。同 HIV 陽性者サポートグループのメンバー 10 名に加え、地域の中で陽性者をサポートしたり、そのために住民が同様の知識を得ることも重要と考え、日ごろ彼らの活動をサポートしているコミュニティ団体(近隣の保育園や高齢者対象グループのボランティアなど)や TAC(※Treatment Action Campaign、HIV に関する活動を全国規模で展開する NGO)メンバーなど 16 名も参加した。 <u>(ホ)生活改善のための家庭菜園づくり</u> ①家庭菜園づくり研修、②技術定着のためのモニタリング、③経験交流 ● 3 月 12～13 日(参加者数 16 名)、16～17 日(5 名)、24～25 日(5 名)、25～26 日(7 名)、4 月 9～10 日(16 名)、16～17 日(7 名)にそれぞれ菜園ファシリテーターが主催する菜園研修を実施し、その後各家庭における菜園設置の指導をおこなった。 ● 4 月 20～22 日、活動地フィアボム村コミュニティメンバー 19 名、4 月 23～24 日、HIV 陽性者サポートグループ 19 名を対象にした研修を実施した。 ● 菜園ファシリテーターの定期会合を 2014 年 12 月～2015 年 5 月毎月実施した。 ● 菜園活動を行なう住民のモニタリングを適時実施している。
(3)達成された効果	<期待される成果> イ. HIV 陽性者やエイズの影響を受ける人びとが地域で適切にケアされるようになる。 ⇒一年次に実施した研修の成果として、HBCV がエイズ治療研修で学んだ知識や情報を生かして、患者にケアを提供していることが、その後二年次に実施した評価活動を通して確認されている。二年次後半から活動提携をはじめたチルンザナニ HBC については、計画通り各種の研修を進める中で、ボランティアたちが新たな知識を習得していることが確認されており、そのことによる活動の質などの変化については今後モニタリングを通じて確認していく。 ロ. エイズの影響を受ける子どもが地域で適切にケアされるようになる。 ⇒カウンセリング研修を終え、子どもたちの個々のケースにより適切に対応できるようになってきている。あるセンターでは、HIV 陽性である子どもの人数が当初把握していたよりも多いことが判明した。これは DICV への信頼が高まり HIV ステータスを子どもたちもしくは保護者が明かしたことによる。また、陽性者の子どもが差別の対象にならないような活動がセンターで実施され始めている。 ⇒地域内の学校との連携を強め、定期的にエイズ予防、いじめ、差別などに関

	する特別授業を実施している。これらの活動により、エイズの影響を受ける子どもたちがより暮らしやすい環境創りがはじまっている。 ハ. HBCV、DICV による予防啓発活動が強化される。 ⇒HBCV について、エイズ治療研修で得た知識を活用し、一年次終了時点で家庭訪問時に予防啓発を積極的に行っていることが確認されている。二年次以降活動をはじめたチルンザナニ HBC については、研修を終え、今年度下半期より啓発活動を開始していく。 ⇒DICV については、子どもたちの家庭訪問の際に、保護者などを通じてエイズ予防啓発を実施している。また、保護者を対象としたオープンデーの実施、学校での啓発活動の機会を DICV 等が積極的に設け予防啓発活動が強化されている。 ニ. HIV 陽性者自身によるケアの質が向上するとともに HIV 陽性者自身が地域で予防啓発活動を実施できるようになる。 ⇒エイズ治療研修から得た知識により、自らの体調改善に役立った、周囲の HIV 陽性者のサポートをしたといった事例が報告されはじめている。一例として、ある HIV 陽性者が間違った ARV 薬を公立診療所で渡され、知らずに服薬したため体調が悪化したことがあり、それを研修を受けたサポートグループメンバーに相談した。研修で ARV 薬の名前を学んでいたことから、今まで服薬していた薬と違うことに気づき、診療所に掛け合うことができた。 ホ. 家庭菜園によって栄養／生活状況が改善される。 ⇒第一年次に育成した菜園ファシリテーターが中心となり、村内で積極的に研修を実施し、実践者を増やしている。二年次より活動をはじめた地域フィアボム村では、JVC のトレーナーが中心となり菜園研修を実施している。 ⇒菜園づくりを継続している人の中から、野菜をスーパーなどで一切買わなくなり家計が助かっている、野菜を頻繁に食べるようになったなどの事例が報告されている。
(4) 今後の見通し	(イ) 地域で患者をケアする在宅介護ボランティア (Home Based Care Volunteer、以下 HBCV) の育成 各研修の成果が日々のケア活動に反映されているか家庭訪問のモニタリングに力を入れていく。また、地域内における HIV 予防啓発活動の実施をサポートしていく。 (ロ) ケアの必要な子どもの世話をするボランティア (Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下 DICV/ECDV) の育成 子どもケアセンターのプログラム改善研修のパートナーが5月に入り決定した。6月から研修とメンター制度を実施していく目途が立った。この活動を通し、今まで研修などを通して得た知識を、センターにおけるプログラムの改善に結び付けていく。 (ハ) HBCV および DICV による予防啓発活動の強化 ● (イ)、(ロ)のなかで実施。 (ニ) HIV 陽性者自身によるケアの質の向上と予防啓発活動の促進 一、二年次に活動を進めることができなかったが、現在の活動地フィアボム村の HIV 陽性者サポートグループと関係を構築し、エイズ治療研修を実施した。今後は、研修に参加したサポートグループメンバーを中心に地域内の HIV 陽性者に情報を提供する活動を支援していくと同時に、研修を通じてケアに関する知識を得たことが、自らの健康改善につながるかモニタリングを実施していく。

	<u>(ホ)生活改善のための家庭菜園づくり</u> 一年次に育成した菜園ファシリテーターによる研修の頻度が増え、活動地内での菜園活動の進捗をより密接にモニタリングができるようになっている。今後は、二年次から活動を開始したフィアボム村においてモニタリグをサポートできる人材の育成に力を入れていく。同時に、事業終了後も協力体制が持続されていくよう、現在活動している村間の経験交流を定期的に実施していく。
--	---